

視覚による日常物体の擬人的認知

○新美亮輔

(東京大学大学院人文社会系研究科)

キーワード：物体認知，擬人化

Visual Personification of Common Objects

Ryosuke NIIMI

(Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo)

Key Words: object perception, personification, anthropomorphism

目的

ヒトはヒト以外の物体にヒトらしさを知覚することがあり、また物体をヒトにたとえることを好む。たとえば動物や植物、乗り物などの物体がキャラクターとして登場するフィクションは多い。また、文字に性別や性格を感じることもある (Simner, Gärtnner, & Taylor, 2011)。こういった擬人化 (personification, anthropomorphism) は、物体認知や対人認知、情動、動機づけなど多くの要因が関わる複雑な現象である (Epley, Waytz, & Cacioppo, 2007)。文字の擬人的認知では、知覚された文字の性格に文字の出現頻度が関係することが指摘されている (Simner et al., 2001)。しかし、文字以外の一般的な日常物体については、その擬人的認知の要因はわかっていない。そこで本研究では、車とイスを材料として用い、その画像を観察しただけで擬人化が可能かを検討し、さらにそのとき知覚された擬人的性質 (性別と年齢) がどのような要因によって決まっているのかを探索した。具体的には2つの仮説を検討した。まず、擬人化は物体への好感度を高めることが知られている (Chandler & Schwartz, 2010)。このため、好ましい物体ほど擬人化されやすいかを検討した。次に、ヒトは車のような物体について、その使用者はどんな人かという知識をある程度持っている (Alpers & Gerdes, 2006)。こういった知識が擬人化に用いられているのではないかと考え、物体の擬人化と使用者推定との関係を検討した。

方法

刺激は車とイスそれぞれ36種のCG画像だった (Figure 1)。背景はすべて共通だった。実験1では擬人化課題が行われた。参加者はコンピュータ画面に提示された刺激画像を観察し、その車またはイスを「人間にたとえたとしたらどんな人だと思うか」を考え、その性別と年齢を回答するよう求められた。性別は男・女のいずれか、年齢は7段階の年齢層のいずれかを選んで回答した。また性別・年齢それぞれについて回答の確信度を7段階のLikert尺度で評定した。各参加者は車セッションとイスセッションを別々に行った。各セッションでは本番試行 (32試行) の前に4試行の練習試行が行われた。練習試行の結果は分析には用いなかった。実験2では使用者推定課題が行われた。実験1とは教示だけが異なり、参加者は刺激画像の車またはイスを「普段もっともよく使っている人はどんな人だと思うか」を回答するよう求められた。回答方法は実験1と同じで、性別・年齢およびそれぞれの確信度を回答した。実験1と実験2の両方に参加した者はいなかった。

結果

性別の回答は男性を-1、女性を+1として数値化し、年齢も年齢層を若い順に0~6に数値化して分析した。実験1の結果を見ると、車・イスともに平均性別評定値や年齢評定値は物体間によく分散していた。また、各物体の性別確信度と年齢確信度は有意に相関していた ($r = .44-.49$)。これらのことから、参加者は車とイスをよく擬人化していたと言える。

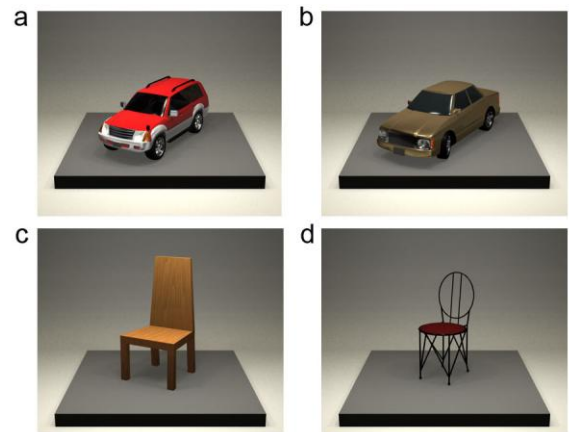


Figure 1. Examples of the car stimuli (a, b) and chair stimuli (c,d).

擬人化と物体の好ましさととの関係を検討するため、同じ刺激について他の実験で得られた主観的好ましさの評定値と実験1の結果との相関を調べたが、性別・年齢およびそれぞれの確信度のいずれとも有意な相関は見られなかった。次に擬人化と物体の使用者の知識との関連を検討するため、実験1の結果と実験2の結果の相関を調べたところ、性別・年齢ともに有意な相関が見られた ($r = .63-.87$)。実験1では、使用者を回答する課題ではないことを教示していたが、それでも擬人化にはその物体の典型的な使用者の知識が流用されることがわかった。このほか車では、刺激画像の色の彩度と擬人化の性別・年齢とに相関が見られ、高彩度の色の車は平均的にはより若く・女性らしく擬人化されることがわかった。

考察

車やイスといった日常物体の擬人的認知はひと目の観察でも十分に可能であり、かつその擬人化は観察者が持っている物体の典型的な使用者ないし所有者の知識に基づいていることがわかった。ただし、車では色との関係も見られ、知識だけでなく知覚的な要因も役割を持っていると言える。

引用文献

- Alpers, G. W., & Gerdes, A. B. M. (2006). Another look at "look-alikes" *Journal of Individual Differences*, *27*(1), 38–41.
- Chandler, J., & Schwartz, N. (2010). Use does not wear ragged the fabric of friendship: thinking of objects as alive makes people less willing to replace them. *Journal of Consumer Psychology*, *20*, 138–145.
- Epley, N., Waytz, A., & Cacioppo, J. T. (2007). On seeing human: a three-factor theory of anthropomorphism. *Psychological Review*, *114*(4), 864–886.
- Simner, J., Gärtnner, O., & Taylor, M. D. (2011). Cross-modal attributions in synaesthetes and non-synaesthetes. *Journal of Neuropsychology*, *5*, 283–301.